



第4回有識者検討会における議論について

令和5年10月
農林水産省
大臣官房デジタル戦略グループ

第4回検討会における委員の主な御発言内容

委員名	発言内容
荻野委員	(主な御発言は農林水産省の取組に対する事実関係の確認であったため省略)
中谷委員	・この委員会ではDXの核は行政手続と地図だと申し上げてきており、今日は進んでいると伺って頼もしく感じた。家畜の管理の情報は飼養衛生管理システムで整備が進みつつあることが分かった。農業ベンチャーがeMAFF地図の情報を活用する取組を進めてほしい。
宮島委員	・農業分野のデータ活用の意義を地方自治体にも理解いただいて、取組が進むよう頑張っていたきたい。 ・eMAFFの民間の取組との連携について、先行して取り組んだところが、汎用性の観点からそのことが結果的に良くなかったといったことがないようにしてほしい。
加藤委員	・こうしたソフトウェアやサービスは、軸をずらさずに時代に合わせて変えていかなければいけない。方針・企画・戦略が一体となって、サービスの改善・改良を進めてほしい。
岡林委員	・説明のあったいずれの取組も素晴らしく、県でも積極的に活用を進めていきたいと考えており、ぜひ進めていただきたい。 ・地図は汎用性が高く様々な取組に使えるので、様々な部署で共有できるようにしてもっと活用したい。
休坂委員	・自分も農業DXの核は行政DXだと思っており期待している。農業者からのデータがデジタル化されると、その後はデジタルで扱えるのでこれだけでも大きな成果とを感じる。

第4回検討会における委員の主な御発言内容

委員名	発言内容
下山委員	・eMAFF地図は、国内有数のDXの先進事例であり、更に頑張っていたきたい。 ・eMAFFによる行政手続のオンライン化は、農水省のみならず、実際に農業者の方々をサポートする立場にある自治体に対するサポートが必要。
三輪座長	・改訂DX構想を作る上で、様々な分野の取組について、上位戦略に対してデジタルの取組がどういうステップでゴールに向かうか、絵姿やロジックを示す必要がある。 ・農水省だけでは完結せず、農水省が作る基盤を活用する人たちによる付加価値も併せてゴールを示し、足りないピースも埋めてあげることが重要。 ・eMAFF地図などを使って、関係する事業者が新たなサービスを提供できるようにすべき。
大橋委員 (欠席)	(事前にいただいたご質問は農林水産省の取組に対する事実関係の確認であったため省略)